

平成 20 年度 日本老年看護学会 総会 議事録

日 時：平成 20 年 11 月 9 日 11 時 20 分～12 時 20 分

場 所：石川県立音楽堂 コンサートホール（学術集会第一会場）

報告者：理事長 中島紀恵子

理 事 太田喜久子 石垣 和子 小西美智子 堀内 ふき 水谷 信子 水野 敏子

正木 治恵

会計監事 北川 公子

太田理事より、総会時点の会員数 1021 名のうち委任状 383 通、出席者 72 名、会則 19 条則り総会として成立している旨が報告され、開催が宣言された。

1. 開会の辞

中島理事長より、開会の辞が述べられた。

2. 議長選出

議長選出にあたっては、慣例により泉キヨ子第 13 回学術集会長が選出された。

3. 事業報告（資料 1～3）

1) 理事会、評議員会報告

中島理事長より、資料 1 に基づき、今年度は理事会 4 回と評議員会 1 回を実施したこと、また、平成 20 年度の主な事業として以下の 6 項目について報告された。

① 学会事務センターとの契約内容の検討

学会事務代行業務委託に関する契約内容を再度検討し、改めて平成 20 年 9 月 16 日をもって継続契約を取り交わした。

② 国際交流委員会の発足

平成 19 年度総会において承認を得た国際交流委員会の委員として、飯田貴映子、井出訓、奥野茂代、片岡万里、正木治恵の 5 名を推薦し、委員会活動を開始した。

③ 会則の改正

会則を見直し、目的および事業、役員、委員会の改正を検討した。

④ 老年看護の政策に結びつく研究活動

老年看護の制度・政策に関連した調査研究活動として 3 つの研究課題が実施されたこと、また診療報酬に関する活動および高齢者の保健医療福祉政策に関する要望・提言を行う予定である。

⑤ 看護系学会協議会等と共同し、看護の裁量権等を検討した。

⑥ 学術雑誌を電子化し公開を検討した。

2) 総務報告

太田理事より、会員数の動向については、平成 20 年度現在入会者 100 名、退会者 33 名であり、総会員数 1021 名である旨、また理事長ならびに事務センターと連携を取りながら、以下についての活

動を行った旨の報告がなされた。

事務センターとの契約の更新，会則の改定ならびに学術雑誌の電子化についての検討等を行った旨が報告された。さらに，平成 21 年度予算（案）の作成ならびに本部予算費の管理を行うとともに，広報委員会活動としては，学会ホームページの情報更新，学会誌 12 巻 1 号・13 巻 1 号のニュースレター，平成 20 年 3 月に刊行された「理事会たより」の発行を行った旨が報告された。

3) 編集委員会

水谷編集委員長より，①13 巻第 1 号については，25 編の投稿があり，うち研究ノート 9 編，資料 2 編の計 11 編が掲載され，11 月 8 日に刊行された，②13 巻 2 号査読については，現在査読ならびに編集作業中であること，③平成 19～20 年度は 68 名の査読委員に査読を行っていただいたこと，④現在委員会では，投稿規程について，とくに論文の種類，判断基準，論文の文字数等の変更について検討が行われていること，⑤11 月 8 日に拡大編集委員会を開催し，編集全般についての意見交換を行ったこと，⑥投稿原稿については随時受け付けているが 14 巻 1 号（4 月），14 巻 2 号（10 月末日）締切りとしている旨が報告された。

4) 研究・教育活動推進委員会

小西委員より以下の 2 点についての報告がなされた。

- ① 前年度から引続き「的確な判断のための思考プロセスの明確化」をメインテーマに，今年度は下記のとおりワークショップを開催。また，講演終了後グループワークとして「事例を素材としたフィジカルアセスメントによる思考プロセスの展開」が行われた。なお，当日の参加者は 40 名以上であった。

会 期：平成 20 年 8 月 8 日（金）

会 場：東京医科歯科大学

テーマ：「フィジカルアセスメント；高齢者の身体構造と生理変化」

講 師：高橋龍太郎

- ② 「看護系大学院における老年看護学教育の状況調査」と題し，修士論文コース修了者ならびに専門看護師（CNS）コース修了者の就業状況の分析を行うため，看護系大学院 107 校（うち回答 63 校，247 名の修了者）に対しアンケート調査を行い，また，その調査結果を基に，平成 20 年 11 月 9 日 9：00～10：30（第 5 会場）においてワークショップを開催した。

なお，上記①②の概要については，13 巻 2 号にて報告する予定である旨が報告された。

5) 老年看護政策検討委員会

石垣委員長より，下記の 2 項目についての活動報告がなされた

① 老年看護政策に関連した調査研究事業

厚生労働省における老人保健事業推進費等補助金の公募課題に応募し，前年度からの継続課題である「高齢者の胃ろう閉鎖，膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・プログラムの開発に関する調査研究事業」と新たに「特別養護老人ホーム利用者の医療ニーズへの対応のあり方に関する研究事業」「介護施設の看護職におけるケア管理に関する調査研究事業」の 2 つの研究課題が追加採択された。なお，調査研究事業については，学会員の協力を基に調査・研究を行っていくことから，今後学会 HP ならびに Newsletter 等を通じて学会員の研究参加を募ることとした。

② その他

診療報酬に関する看保連（看護系学会等社会保険連合）の活動のほかに、新たに高齢者の保健医療福祉政策に関する要望書の作成ならびに政策提言を行うことが報告された。

6) 研究論文表彰選考委員会

堀内委員長より、第2回表彰論文について、第11～12巻を選考対象とし、選考委員会ならびに理事会にて審議を経て、以下の3論文（優秀賞1本、奨励賞2本）が決定した。また新たに、学会ロゴマークが決定された旨の報告がなされた。

・優秀賞：田高悦子・川越博美・宮本有紀・緒方泰子・門田直美

「認知症ケア専門特化型訪問看護ステーションにおけるサービスの質の評価基準の開発」

・奨励賞：栗生田友子・長谷川真澄・太田喜久子・南川雅子・橋爪淳子・山田恵子

「一般病院に入院する高齢患者のせん妄発症と環境およびケア因子との関連

出貝裕子・勝野とわ子

「介護老人保健施設における認知症高齢者の agitation と騒音レベルの関連」

7) 国際交流委員会

正木委員長より、飯田貴映子、井出訓、奥野茂代、片岡万里の5名の委員にて活動を行い、以下の3項目を今後の活動方針としていく旨が報告された。

①学会ホームページでの国際学会ならびに国際交流に関する情報提供

②国際学会との連携・ネットワークづくり

③実践・教育面での国際交流の促進

なお、②については、国際老年学協会（IAGG）、アメリカ老年学協会（GSA）、アジア近隣諸国の老年看護学会等を検討している旨の報告がなされた。

8) その他

太田理事より、日本看護系学会協議会が参画することが承認された「診療行為に関連した死亡調査分析モデル事業」について、当学会においても協力し当該事例が発生した場合、有識者を推薦する旨が報告された。

以上、報告事項1)～8)についてのすべての報告事項に対し承された。

4. 議事事項

1) 平成19年度決算報告

水野会計担当理事より、資料3を基に以下のとおり説明があり、これを了承した。

① 収入の部については、会費収入：9,080,000円（正会員890名）、学会誌等販売費：46,975円、利子・雑収入：1,232,511円等（第12回学術集会よりの寄付・ワークショップ参加費等を含む）、前年度繰越金：4,193,689円を含め、合計15,453,175円の収入があった。

② 支出の部については、機関誌購入費：3,968,265円、編集委員会費：901,299円、研究論文表彰委員会：206,085円、老年看護政策検討委員会：139,820円、学会事務委託費：1,196,895円、本部事務費：359,288円、学会積立金：2,000,000円等、合計11,611,710円を支出し、次年度への繰越金を3,841,465円とした。

③ 学会積立金特別会計については、一般会計より：2,000,000円、受取利子：6,069円、前年度繰越金：3,001,200円を含め、次年度への繰越金を5,007,269円とした。

2) 平成 19 年度決算監査報告

北川会計監事より、平成 20 年 5 月 9 日、正木治恵会計監事とともに、事務センターにて、通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果、平成 19 年度の決算書が適正かつ正式なものであったとの報告がなされた。

3) 平成 21 年度事業計画（案）

中島理事長より、資料 4 を基に平成 21 年度事業計画（案）として以下の 9 項目が挙げられ、これを了承した。

- ① 第 14 回学術集会の開催
- ② 学会誌第 14 巻 1 号、2 号の発行と電子化による公開
- ③ 国内外の研究・教育ならびに生涯学習事業の推進
- ④ 老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑤ 看護系諸学会との共同事業の推進
- ⑥ ホームページの充実
- ⑦ 表彰論文の選考
- ⑧ 役員選挙の実施
- ⑨ その他本学会の目的とする事業

4) 平成 21 年度予算（案）

水野会計担当理事より、資料 5 を基に以下のとおり説明があり、これを了承した。

- ① 収入の部については、会費収入：9,720,000 円、前年度繰越金：3,300,000 円を含め、合計 14,070,000 円の収入とした。
- ② 支出の部については、学会誌購入費：4,536,000 円、学術集会貸付金 1,000,000 円、学術集会助成金：300,000 円、研究論文表彰選考委員会：250,000 円、基本事務委託費：1,250,000 円、本部事務費：800,000 円、および平成 21 年度は選挙年となるため、評議員選挙費 305,000 円を計上し、予備費：1,474,000 円を含め、合計 14,070,000 円を支出するものとした。

5) 会則改正（案）

太田理事より、資料 6 を基に、学会活動の活性化を図るため、第 8～13 章、第 4・13・14・16・17、23～29 条の会則の改定案が提出され、これを了承した。

なお、特に理事定数を 10 名から 12 に変更するとともに、副理事長を新たに設けることとした。

これを受けて、現在、理事長代理となっている太田理事を、副理事長とした。

6) 学術雑誌電子化・公開における対応について

太田理事より、資料 7 を基に国立情報研究所の電子図書館（NII-ELS）にて、当学会学術雑誌「老年看護学」の電子化・公開についての説明がなされた。本電子化の趣旨はより多くの人に本誌を読んでもうとともに、引用等において活用願うものであることが報告された。なお電子化にあたっては、筆頭著者から承諾を得られたものに限るとした。

5. 第 14・15 回学術集会について

1) 第 14 回学術集会

井出第 14 回学術集會長より、下記の日程にて開催、テーマについては、現在検討中である旨の報告がなされた。なお、例年より開催時期が早いことから、演題抄録の募集に関して、平成 21 年 4 月 1

日～5月7日と1か月早まるため注意が促された。

開催日：平成21年9月26～27日（土・日）

会場：札幌コンベンションセンター

テーマ：未定

2) 第15回学術集会

中島理事長より、第15回学術集会長を小泉美佐子評議員（群馬大学医学部保健学科）にお願いする旨の報告がなされた。

6. 表彰

堀内委員長より、第2回研究論文表彰受賞者の発表が行われ、下記受賞者に賞状ならびに楯が贈呈された。

・優秀賞：田高悦子・川越博美・宮本有紀・緒方泰子・門田直美

「認知症ケア専門特化型訪問看護ステーションにおけるサービスの質の評価基準の開発」

・奨励賞：粟生田友子・長谷川真澄・太田喜久子・南川雅子・橋爪淳子・山田恵子

「一般病院に入院する高齢患者のせん妄発症と環境およびケア因子との関連

出貝裕子・勝野とわ子

「介護老人保健施設における認知症高齢者の agitation と騒音レベルの関連」

7. 閉会の辞

太田理事より、閉会の辞が述べられ、閉会となった。